

# futbol y vida

Poco a poco ...  
boco y boco ...



シード校の工学院戦は延長戦の末サヨナラ負け...  
悔しさと反省を活かし選手権に向けて精進する!!

インターハイ予選は、代表決定戦で延長の末敗退!! 10年ぶりの都大会はまたもお預け

選手権&リーグ戦に向け “K's Football style” を進化させる!!



<2022 最初の公式戦インターハイ予選!! 10年以上も空いた都大会出場を目指した!!>

公式戦には常に“魔物”が棲んでいる...

4月24日(日)からスタートしたインターハイ予選初戦は多摩科学技術戦。大会前にケガ人が出たこともあり、期待の新一年生を二名登用して臨みました。ゲームは幸先よく先制しましたが、早々にケガ人が出て負傷退場する想定外の展開となりそこからリズムが掴めずにいると、まさかのオウンゴールで同点に。それでも直ぐに一年生コンビでゴールを奪いリードをしました。その後も決定的なチャンスを作るものの三点目を奪えずにモタモタしていると相手は「やれる」という確信が持てたのか、気持ちの入ったプレーで前に前に出て応戦し追加点を奪わせません。

結局、追加点は残り10分を切ったところでようやく生まれ、鬼門である大切な初戦を**3-1**で勝利しましたが、肝心な本番に持っている力を発揮できない部分(不甲斐なさ)を露呈させてしまいました。

インターハイに向けて、チームはいい準備をして公式戦に臨みましたがTRMの時のような思い通りの良さやミスをおそれてなのか積極的にチャレンジするプレー(姿勢)が見られません。このゲームもイージーミスが目立ち結果的に自分たちで苦戦にしまいました。やはり公式戦には魔物が棲んでいるようですね。ボールを持ち主導権を握るサッカーは勇敢に自信を持ってボールを受けることを避けていたらできません。二回戦に向けて反省です。



<新一年生が結果を出す!!>

## 代表決定戦 VS 工学院は延長戦の末敗れる

続く二回戦の相手は東村山西高校です。片倉高校は、この日は怪我人も復帰しメンバーもベストな状態でゲームに臨みました。立ち上がりから攻勢に出て相手ゴールに襲い掛かり、課題のシュートがゴールネットを揺らしゲームを優位に進めます。トレーニングで積み上げてきたことを発揮でき、久しぶりに安定したゲーム運びで安心して見守ることができる内容でした。

そして、二年ぶりに進出した代表決定戦 VS 工学院は八王子の戸吹グラウンドで行われました。二回戦から中一日で迎えた決戦。前日は、本番と同じ人工芝のグラウンドをお借りしてトレーニングを行うなど、万全の態勢でこのゲームに臨みました。ウォーミングアップから子どもたちも集中していて、勝利＝都大会出場への執念を感じました。今にも降り出しそうな空模様の中、工学院のキックオフで始まりました。立ち上がりから片倉DFラインの裏を突いて蹴ってくる工学院に対し、GK西野(3年)からのビルドアップと工学院の背後を突くパスを織り交ぜながら相手ゴールへ迫ります。最初のビックチャンスは、右サイドの大村・亀井(3年)の突破から生まれました。しかし、この後、守備の要である熊谷(2年)が負傷退場するアクシデント(まさかこれがこのゲームの明暗を分けることになるとは思いませんでした)。それでも、混戦から福住(2年)が先制すると、直ぐに草野(3年)がFKからゴールを決めリードを広げます。その後お互い一点ずつ取って前半を3-1で折り返します。

後半はリスクを冒して前に前に出てくる工学院にやや押され気味のゲーム展開に。こちらもややリスクを避けてロングボールが増えてくるといつものリズムが掴めずに、逆に相手の蹴り込むサッカーに押し戻されて守備に回る回数が増えてきます。流れが相手に傾くと相手のカウンター攻撃から失点、30分にはCKからこの日二点目を奪われ3-3の同点に追いつかれ、勝負の行方は延長戦に連れ込みました。ここからは一進一退の攻防が続きお互い決定機を作るものの得点は動きません。延長後半も残り時間僅かとなり、PK合戦も頭を過りました。すると、ヘディングで跳ね返されたボールが相手選手に渡りドリブルで持ち出され振り抜いたシュートが片倉ゴールに突き刺さりそのままタイムアップ。勝利の女神は工学院に微笑み、手に届きそうであった都大会出場はまたしてもお預けとなりました。

### 負けに不思議な負けはなし!!

10年以上も空いてしまった都大会の舞台に戻る大チャンスをつかみかけましたが、最後は振り解かれ失った形となりました。もう少し、あと一歩…。きっと何か足りなかったのです。しかし、落ち込んでいるわけではありません。今回の敗因を真摯に受け止めて、この後のリーグ戦そして八月下旬からスタートする選手権予選に向けて再び前を向いて進んで行きたいと思えます。

### <After the Game>

インターハイ予選代表決定戦は、この三年間で最も都大会に近づいたゲームでしたがあと一歩及ばず。サッカーでは「4-3」というスコアのゲームが一番見応えがあるといいますが、劇的なフィナーレとなりました。チームは既にリスタートしGWもゲーム三昧で強豪校とTRMで揉まれ少し逞しくなりました。この悔しさをバネにして選手権では結果を出したいと思えます。

今日は母の日です。いつもサッカー部(子どもたち)の応援ありがとうございます。日頃の感謝の気持ちをカーネーションに込めて!!



<前半は片倉のペースでゲームを進めた>

